

[ピラミッドからの話題]

防疫, それとも亡益か

櫻井 忠 (日本農産工業(株)畜産技術センター)

All about SWINE 49, 37-38

「ぼうえき」という言葉を国語辞典やインターネットで調べると「貿易」あるいは「防疫」の2文字に行き着く。畜産の世界では防疫は農場防疫と同義で、家畜衛生や農場運営の関係者には聞き慣れた言葉のひとつであろう。

農場防疫に不備があったら、どうなるか? 養豚場を例にあげれば、さまざまな疾病の侵入を許し、それに続く生産性の著しい低下に農場主は頭を悩まされることになる。2010年の口蹄疫発生、2014年からのPED続発が養豚業界にもたらした影響は記憶に新しいところであるが、古くは豚コレラ、AD、PRRSと言った伝染病による被害も甚大であったはずである。

生産性の低下は農場の亡益に直結する。「亡益」という言葉は、ここでは「利益を亡くす」という意味で用いるが、著者は辞書やネットで見つけられなかった。したがって、亡益は造語であり、農場利益の損失は無くす、失くすと書く方が正しい日本語表現かもしれない。

2008年12月に農場設立以来PRRS侵入を許さなかった某SPF豚農場からPRRS侵入の一報を受けた。管轄家保が行った年明け出荷予定豚の検査で判明した。著者の勤務先はすでに年末休みに入っており、「えっ?」、「マジですか?」、「ELISAは非特異反応では?」と言った心境だった。正月

間近で、多少なりとも業務の緊張感から解放されつつあったが、一気に「どうしたら良いか?」と言う思いが頭に中を巡った。

農場では、ある製薬メーカーの協力を得て年末年始に集中的なELISA検査を行い、陽性豚のいる豚舎からの収容豚の緊急淘汰を行った。残念ながらPRRSはすでに場内で広範囲に拡がりつつあり、言うまでもなく年明けの出荷はキャンセルになった(と記憶している)。PRRS侵入から2ヵ月後には母豚のELISA陽性率は100%に達したが、幸いPRRSに見られる死流産、ヘコヘコ等の症状は見られなかった。しかし、肉用子豚やPS種豚を販売するという農場ビジネスへの影響は大きかった。SPF豚農場といえども、PRRS陽性農場で生産された豚はユーザー農場には簡単には買ってはもらえないのである。理不尽な値下げ要求もあった。ユーザー農場がPRRS陽性であっても事情はほぼ同様で、このSPF豚農場はまさに「亡益」状態に陥りかけた。

この農場はすぐにPRRSの排除を決意し、強い意思で取り組んだ結果、侵入から6年後にPRRS清浄化を達成できた。著者はこの取り組みに管理獣医師の立場で協力できた。PRRS排除の成功には有利な要因がいくつか働いたが、特效薬のないPRRSに対して農場防疫の整備は特に重要で

あった。ELISA は採血さえすれば検査機関が行ってくれるが、農場防疫は農場自らがやらなければならない。伝染病を起こす病原体を「農場内に入れない」、「農場の中で増やさない」、「農場の外へ出さない」が農場防疫の基本三原則になると著者は考えていたので、目に見えない病原体を農場の中で増やさないためにオールイン・オールアウト

(AIAO) の徹底を中心とした農場防疫を強く農場を求め続け、そして監視した。AIAO を厳密に行うことは容易ではなく、農場運営の重要事項は他にも多数ある。著者はこの農場の事例で、農場防疫は亡益状態への転落を未然に防ぐ優れた管理技術であることを、身を持って感じた次第である。